

— 認知症看護認定看護師の役割と活動 —

認知症とは、何らかの影響で脳細胞が死滅し、その障害によって日常生活に影響を及ぼしている状態のことをいいます。記憶障害が中核症状として現れる人が多いですが、障害を受けた脳の部位によって現れる症状も人それぞれです。言葉の意味を理解できない、自分が伝えたいことを言葉にできなくて困っている人も多くいます。

私が認知症看護認定看護師を目指したきっかけは、消化器内科と循環器内科の病棟で勤務していた時、せん妄や認知機能が低下した患者さんが多く、悩みながら手探りで看護をしていた時期にありました。これで良かったのか、他に何かできたのではないかと悩んでいた時、当時の担当看護副部長から認知症看護認定看護師を目指してみないかと勧められたことをきっかけに認知症についての学びを深めたいという思いが芽生えました。資格を取得し2023年度から認知症看護認定看護師として活動を開始しました。

現在は、循環器内科、皮膚科病棟の自部署でせん妄を発症した患者さんや認知症、認知機能が低下した患者さんの対応、身体拘束をしない・身体拘束低減に向けた看護を病棟看護師と一緒に検討し実践しています。院内では、認知症ケアサポートチームの一員として横断的に活動しています。また、外来患者に対して、脳神経内科の医師と協力し、認知症重症度を調べる臨床的認知症尺度（CDR；clinical dementia rating）検査や、多職種向けに勉強会なども開催しています。



認知症ケアサポートチーム

私は、「患者の真のニーズを知る」ということを大切にしながら看護をしています。患者さんが発した言葉や行動だけに捉われるのではなく、その背景や思いを知ることで真のニーズが見えると考えています。まさに、認知症看護の大切なところは「患者の真のニーズを知る」ではないかと考えます。認知症の人は、私たちにとって時に不可解な行動を取ったりしますが、その言動には必ず意味があるといわれています。その意味を知り関わることで、認知症の人の安心につなげることができます。

昨今、急性期病院に入院した認知症の患者は、尊厳を脅かされているともいわれています。その理由の一つとして、認知症

患者にとって不適切な対応が混乱を招き、行動心理症状につながり身体拘束を受けたり、目的の治療が受けられなかったりすることがあるからです。認知症の人の言動の意味を知る関わりは一人ではできません。認知症があっても安心して入院生活を送り、治療が受けられるようなサポートができる環境を作ることが私の目標です。